

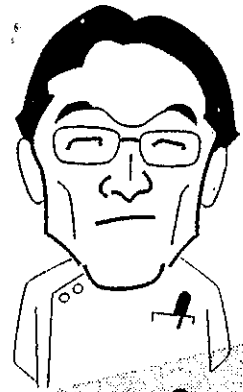
在宅診療

「この方はとても偏屈で人の言うことを素直に受け取らない、難しい人です。良く言えば自分の意志をはっきり持って、ぶれない方です」

往診に際してケアマネジャーよりアドバイスをいただいた私たちは、よくあることだと思いつつも、ちょっと気が

さじを投げられた経緯があったためか、ご家族は不安でしようがないようでした。ご本人とご家族に在宅診療は難しいこと、いつも私たちがサポートしていることを説明し、在宅診療を始めました。

痛みのコントロールも順調になり始めた3度目の往診後から、呼吸がしづらいという訴えが強くなり、在宅酸素療



ホスピスから

<101>

下松市・阿部クリニック院長 阿部政則

重い感じで、Aさん(78)のご自宅を訪問しました。

Aさんは肺がんの末期で常に強い痛みがあり、脳への転移によって右半身がまひしていました。ご本人は自宅で最期を迎えたいと在宅を強く望まれていました。ただし、今までささいなことで頻繁に緊急連絡し、他の医療機関から

法を開始しました。するとある日突然、別の病院からAさんの情報提供を求める連絡がありました。Aさんはご家族と一緒に、その病院へ入院されたそうです。訪問看護の方も知らなかったようでした。

ご家族やご本人の気持ちを推し量ることの難しさを痛感しました。

信頼されることの難しさ

平成30年2月26日 毎日新聞より